

3月10日 AM7:30 松本を11名が2台の車に乗り合わせ出発。天候は雪。中央高速道路を走り、諏訪南インターから、降雪の中、真白な山麓道路を登る。AM9:00 美濃戸口到着。ここで2名を加え13名で登山準備を整え、登山開始。深雪の林道を進み、AM10:40 美濃戸山荘到着。ここからは北沢ルートを進み、林道終点の砂防ダム手前から小橋を渡り、トレースを頼りに雪道を登る。徐々に上空の雪雲が消え、登る前面に横岳大同心の岩壁が迫ってくる。PM1:30 赤岳鉱泉小屋に到着、宿泊手続きをして、遅い昼食を摂る。



雪道の林道を行く



大迫力で迫る横岳、大同心の岩壁

トレースを頼りに登る

昼食後全員アイゼンを装着して行者小屋へのルート脇にある雪斜面に向かう。斜度30度程の雪斜面で滑落停止練習を1時間程行い、PM4:15 小屋へ引き返す。小屋では遅れて来た2名と合流し総勢15名となり泊す。



主峰赤岳 2889m

深い雪を交代でラッセル



雪斜面での滑落停止練習

11日 AM5:30 起床。朝食後 AM7:40 雪山装備を整え、小屋を出発。上空は快晴、無風、アイゼンを効かし森林帯の雪斜面を登る。高度を稼ぐと、南に白銀の甲斐駒、仙丈ヶ岳、南西に中央アルプスが望まれる。



白銀の硫黄岳



森林帯の雪斜面を登る

森林限界から 30 度を超す真白な雪斜面を、ジグザグに登り続け、小さな雪庇を乗り越えると、赤岩の頭と呼ばれる稜線に、AM9:15 登り出る。急に展望が開け、北方に北八ツの蓼科山、天狗岳、そして浅間山が望まれる。しかしその北方彼方は、雪雲が覆い遠望は効かない。



登山道から望む主峰赤岳 2899m 森林限界付近の雪斜面を登る 赤岩の頭直下付近を登る参加者

冷風が吹くアイスバーン状態の稜線を、アイゼンを効かし登り続けると、AM10:00 硫黄岳山頂に、15 名全員登頂する。頂上に立つケルン脇で、風を避け熱い茶を啜り、登頂の喜びに浸る。私達は、頂上で 15 分程冷風に震えた後、下山を開始する。



赤岩の頭と阿弥陀岳 2805m



山頂を目指し、アイゼンを効かせて登る



山頂から北に天狗岳を望む



硫黄岳山頂 2765m に全員見事登頂



山頂から望む横岳 2829m 赤岳 2899m 阿弥陀岳 2805m の勇壮な姿

稜線からの雪斜面の下降に注意し、森林帯の雪道を慎重に下山して、AM11:30 赤岳鉱泉に無事帰還する。昼食後、PM12:40 小屋を出発。昨日と同じ北沢ルートを引き返し、美濃戸山荘からは雪の林道を歩き、PM3:00 美濃戸口に無事到着する。ここから 2 台の車に乗り合わせ、往路と同じ道を走り、PM4:00 松本に無事到着、解散とする。「恐怖に打ち勝ち、勇気を奮って登った、初めての雪山。その感動と喜びを称えたい。また忘れられない登山となった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則